

「あなたの熱心(真剣)とは」

ヨハネの福音書2:13-21

■ あなたの生き方は？

あなたは今、自分の内側の本当の自分を我慢して、外側の喜びを見出すために生きていますか？それとも内側にある喜びを感じながら外側にある様々なことを乗り越えて生きていますか？同じことのように思いますがこれは大きく違います。外的な幸せを求める人は普段の生活の中で自分を我慢させ、一時の喜びを得るために発散させる・・・多くの人はこういう生き方をしていないでしょうか。言いたいことがあってもなるべく言わない、問題があってもそれをなるべく関わらない・・・本当は何かしなければと思っているけど、様々な問題が起こるよりは触れない方がいい、そんなことはないですか？ずっと我慢して、何かが起こった時に考える、こんなふうに私たちの生き方が本当にこの「我慢」の生き方でいいのでしょうか。そのためにデフォルトをとることを考えてきましたが、このデフォルトがとれてから考えるべきことがあるのです。デフォルトがとれてくると私たちは見て見ぬふりをしなくなるのでだんだん熱心になってきます。ところが熱心になるとまちがえてしまうことが多いのです。この熱心がどこから出てきているかが大切です。「主の思う熱心がその本人を苦しめる」私たちが、腹が立つことや人に嫌なことというのは自分に対して思っていることが多いのです。そういう時には目線に注意です。

■ カラマーズフの兄弟

ドストエフスキーが書いた「カラマーズフの兄弟」という小説を知っていますか。この小説では複雑な人間模様が描かれていますが、同じ境遇でありながらいろんな生き方をした人物が出てきます。欲、金、幸せなど、この価値観を外側から得るために自分の人生を滅ぼしてでもそれを得ようとしていく人とそれを置いてでも、自分の内側にある本当の内的幸福を見出そうとする2通りの人です。今のあなたの生き方は本当に内側にある喜びを見出して、外側に流す生き方なのか、外側から喜びを得ようとして内側にあるものを我慢して生きているのか、どちらなのかを考えてほしいのです。この後者の生き方は私たちの人生に様々な傷み、失望や問題をもたらしていくのです。そして環境がそうさせているのではないということも覚えておかなければなりません。

■ ヨハネの福音書2章13節～21節

有名な宮きよめの記事です。このとき商売人は庭で商売をしていました。それに対しイエス様は「細なわ」で怒っています。彼は怒っているが非常に冷静でした。いったい何を怒っていたのでしょうか。この庭というのは唯一神様を信じる異邦人が入ってよい場所でした。ところがそこを占領して異邦人たちが礼拝できない環境にされていたそれを怒っていたのです。このようにイエス様の目線はいつも本当に神様を求めている人のことを見ています。あなたはどうか。人がたくさん集まると価値観の違いが生まれ、その中でいろいろなことが起きてきます。そういう時にあなたがそこで腹が立っている出来事は一体何なのかを考える必要があります。この記事のイエス様のようにそこで起きている出来事が誰かの妨げになっていて、それが本当にふさわしくないから怒っているのですか？それとも、早とちり、勘違い、思い込み、いろいろな出来事によるただの苛立ち、そんなことで怒っていませんか？

「弟子たちは『あなたの家を思う熱心がわたしを食い尽くした』と書いてあるのを思い起こした。」(ヨハネ2:17)

自分のために怒るいかりはその時幸せです。しかし、神様のために怒るいかりはその時、本当に心が傷みます。そして真剣に向き合うので、多くの環境に問題を生じさせることもたくさんあります。イエス様の公生涯もそうでした。イエス様が宮の中で大暴れしたためにパリサイ人たちは怒り、十字架にかけなければならないと思うようになったのです。

少しでも豊かなことを人々に見せて評価を得られるようにする、そういう生き方をしていたパリサイ人達。それに対し、問題に向き合うがゆえに一見人々の前で大ひんしゅくを受けるような行動を起こすイエスキリストの生き方。このことから何を学ぶべきでしょうか

1. 問題に向き合っているか

あなたの生き方は本当にこのイエス様のようにあなたの目の前にある問題にきちんと向き合っていますか。

2. パリサイ人のような生き方になってはいませんか

自分のために怒るような人生を生きていませんか。自分の立場や地位や名誉を守るため、自分の価値観にあわないから腹が立つ、自分の予定や計画が狂うからだから排除すべきだ、そんな思いがあなたの中にはありませんか。

■ 目線がずれると...

「すると、ユダヤ人たちがイエスに対して言った。「こんなことをするからには、どんなしるしを見せてくれるのか。(2:18)」ユダヤ人たちは「しるし」を求めています、サマリヤの人たちが求めたのは「教え」でした。私たちの目線がずれていると求めるものが違うのです。礼拝にきていたのではなくて「したがうのかどうか見せてみる」と言っています。そして神殿を3日で建て直すというイエス様に「46年もかかったのに・・・」と馬鹿にして言いました。建物に目がいついていた彼らには、心の中で礼拝できるということ、十字架でイエスキリストが3日のうちに礼拝の様式を全く覆すということに気づけなかったのです。このように私たちの目線が見えなくなっていることはもったいないことです。私たちがみている神殿は人生の豊かさであり外側からでる安心です。彼らはこの神殿が人生の目標点でした。そしてそこで自分たちを救い出してくれる教えではなく力でやってくれるリーダーを待ち続けていたのです。だからずれたのです。

■ 真の礼拝をささげるために

イエス様が求めている礼拝は子どもたちが神様の前に出てくるような姿です。今あなたは子どものように礼拝していますか。仲良くしていますか。けんかしても仲直りしていますか。だから私たちの中の汚い心を捨ててののです。この心を捨てられた時、初めて真の礼拝がささげられるのです。外側から得られる利益をもとめ、ちょっとした誰かより・・・そんな心を捨ててののです。それに立ち向かうのが「細なわ」です。当たっても痛くないんです。神様は今あなたの心の中で真剣に怒っています。あなたのためです。車も運転手がいなかったら止まることすらできません。主を失ったら止まれないのです。そして神様から離れて自分の力で生きるというのはそういうことです。自分の価値観や自分の思いで動かそうとすると結果、大きな神殿を建てて目に見えるようにしてそれによって人々に影響力を維持しようとしたのです。イエス様がサマリヤの女にしたことは違いました。でもそれを通して町中の人が救われました。それは彼女が外側からくる安心感ではなくて心の内側からくる喜びに感じいったからです。あなたはこの喜びを探しにきていますか。私たちの人生が神様に会っていくとあなたの心の中にある喜びが我慢ではなく人々に伝染しようとするのです。あなたはどちらを選びますか？

■ 得ようとする...

人はおろかな生き物です。自分の外側を着飾り、誰かから感謝されたり評価されたり、認められたい、誰かのためにやってしまうようになります。「自分の十字架を負ってわたしに従って来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。自分のいのちを得る者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを得るのです。」(マタイ10:38-39)自分の主義主張を誰かに聞かせようとする、それは自分を得ようとする行為です。そしてそれは自分を失います。そしてここに出てくる「いのち」は私たちがパリサイ人にならないことです。サマリヤ人のようにいのちを得るために学びにくるのか、それともいのちを失った人たちが失ったことをごまかすためにイエスキリストの元にきてしるしを求めるのかの違いです。

■ まとめ

人からの評価を得、自分の地位や立場を得るために生きることを選ぶのかそれとも神様の家を思いながら自分がすべき生き方を、愛をもって「細なわ」で向き合うのか・・・イエス様はこのあと十字架に向かっていくのです。そして十字架を負ってついてきなさいと言われたのです。クリスチャンはこの十字架を負っていきる生き方なのです。神様の前に生きるということは一時このように傷みを負うことになるかもしれませんが、でもイエスキリストはあなたに今喜びを得ているのです。イエス様を信じ救われた瞬間にそのすべての傷みは喜びに変えられていったのです。今喜ぶのか本当の神の御心があらわされたときに喜ぶのか考えていきたいのです。十字架・・・なぜ彼が十字架にかかったのか祈って考えましょう。御言葉をかみ砕きよくわからうとすればあなたの生き方は180度変わるはず。あなたの真剣さによって見出すことができます。ぜひ本来の自分の生き方を見出し、選んでいきましょう。

(要約者: 岩崎 祥誉)

(2025年9月14日)